CONTAX



取扱説明書

RTS Ⅲ

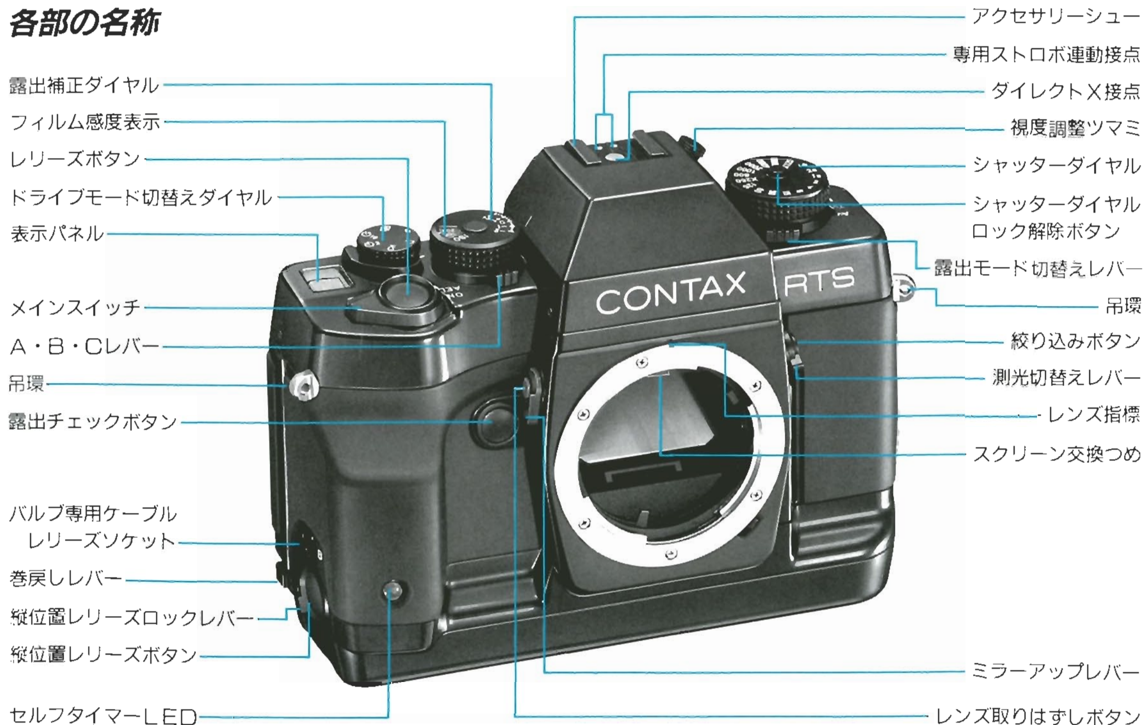
このたびは、コンタックスRTSⅢをお買い上げいただき、
ありがとうございます。
このカメラは、コンタックスRTSのリアルタイムシステム思想を
受け継ぎ、新たに最高速1/8000秒シャッター、
RTV(リアルタイムバキューム)機構、プレ発光TTLストロボ撮影、
狭範囲のスポット測光、などコンタックスの最高級機にふさわしい
特長を加えております。
その機能、性能をフルに発揮させる為に、ご使用になる前に必ず
この取扱説明書を最後までお読みいただき、充分ご理解のうえ
お使いくださるようお願いいたします。



この取扱説明書は、図のようにして各部の名称と照らし合わせて読むことができます。

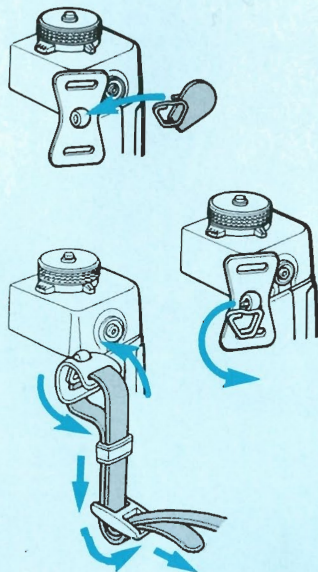
この取扱説明書の説明内容は、マルチモード対応のプラナーT＊50mm F1.4(MM)付で行っています。他のマルチモード対応のカールツァイス交換レンズを装着した場合も使用方法は同じです。

各部の名称


露出補正ダイヤル
フィルム感度表示
レリーズボタン
ドライブモード切替えダイヤル
表示パネル
メインスイッチ
A・B・Cレバー
吊環
露出チェックボタン
バルブ専用ケーブル
レリーズソケット
巻戻しレバー
縦位置レリーズロックレバー
縦位置レリーズボタン
セルフタイマーLED
アクセサリーシュー
専用ストロボ連動接点
ダイレクトX接点
視度調整ツマミ
シャッターダイヤル
シャッターダイヤル
ロック解除ボタン
露出モード切替えレバー
吊環
絞り込みボタン
測光切替えレバー
レンズ指標
スクリーン交換つめ
ミラーアップレバー
レンズ取りはずしボタン
CONTAX
RTS

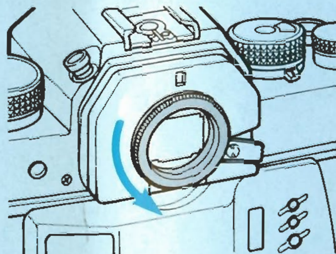
ストラップの取付け方

図にならって取付けてください。

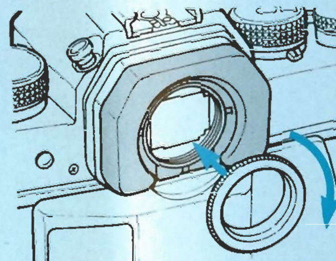


アイカップF-4の取付け（標準装備）

①接眼リングを図のように回してはずします。

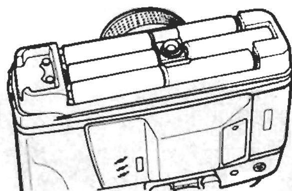


②アイカップを接眼部に取付けて、接眼リングをネジ込んで固定してください。

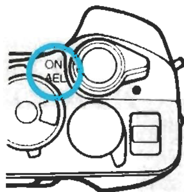


目　次

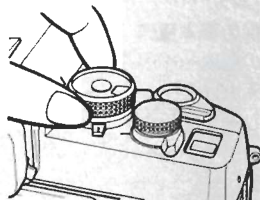
撮影の早わかり



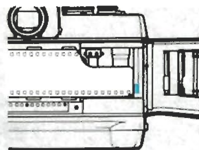
1 電池を入れます。



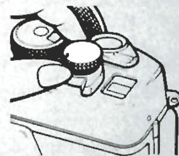
2 メインスイッチを“ON”にします。



3 フィルム感度表示を“DX”にします。



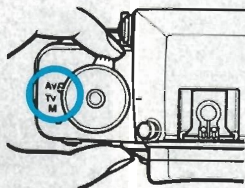
4 フィルムを入れ、先端をオレンジ色の“▬”マークの位置まで引出しそのままスプールの上にのせます。



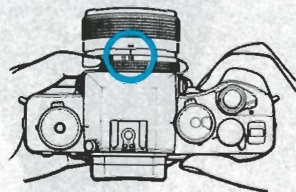
5 ドライブモード切替えダイヤルを“S”または“CL”“CH”にします。

絞り優先オート

P.26



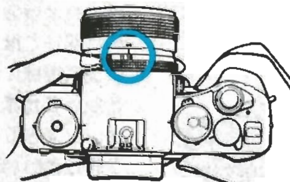
6 露出モード切替えレバーを"Av"にします。



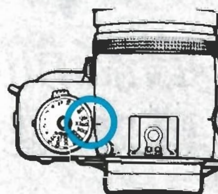
7 絞りをセットして撮影します。

シャッター優先オート

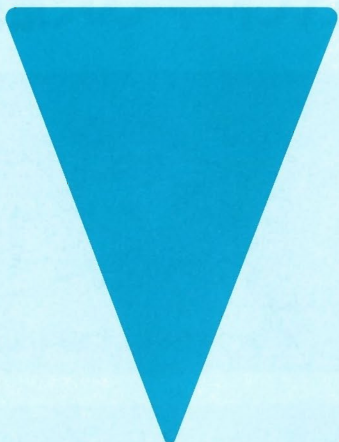
(MMレンズ使用時のみ) P.27



6 露出モード切替えレバーを"Tv"にし、レンズの絞りを最小絞り(緑色)にセットします。

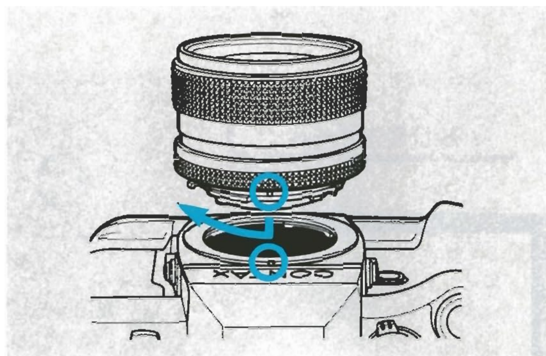


7 シャッタースピードをセットして撮影します。



撮影前の基本操作

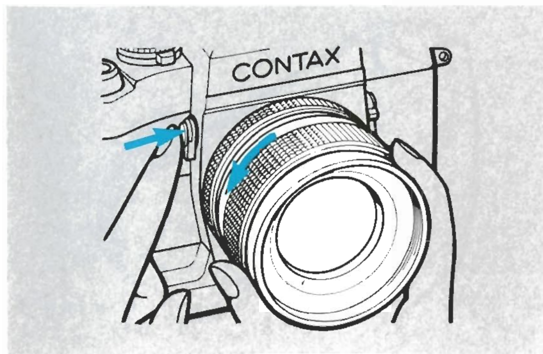
レンズの着脱



〈レンズの取付け〉

まずカメラのボディキャップとレンズの後キャップをそれぞれ回してはずします。次にレンズ側の赤点をカメラ側のレンズ指標に合わせてはめ込み、時計方向に“カチッ”と音がして止まるまで回して取付けます。

●レンズを取り付けるときは、必ずレンズ側の赤点をカメラ側の赤いレンズ指標に合わせてから、はめ込んでください。赤点を指標に合わせず差し込み、レンズを回しながらカメラのマウントにはめ込むと、レバー等に無理な力が加わりカメラの故障や破損の原因になります。

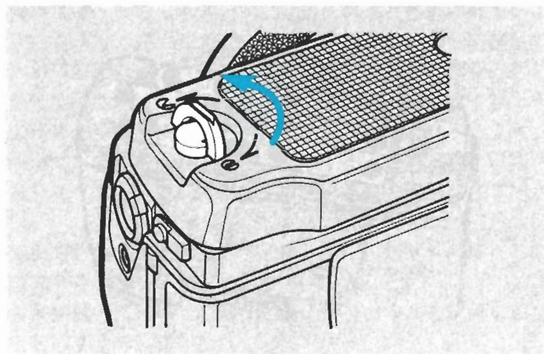


〈レンズの取りはずし〉

レンズ取りはずしボタンを押しながらレンズを反時計方向に止まるまで回し、前方に引出してはずします。カメラからはずしたレンズにはレンズキャップと後キャップ、またカメラにはボディキャップをかぶせて保護することを忘れないでください。

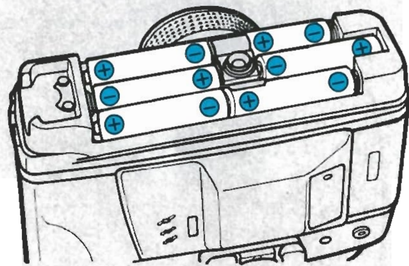
◉レンズ着脱の際、レンズ面やボディ内部に触れないでください。

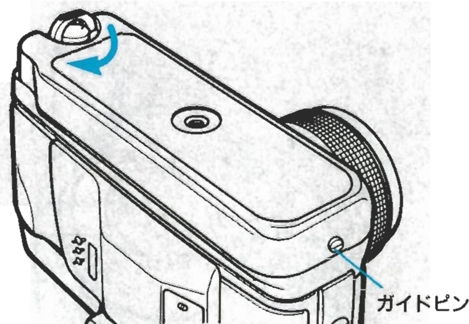
◉フィルムが入っている状態でレンズを着脱するときは、直射日光を避けてください。



RTSⅢはフィルム巻上げ、巻戻し、シャッターなど、すべての機構が電池で作動するようになっています。カメラは電池が入っていないと作動しません。

1 カメラ底部のバッテリー室カバー着脱ノブを起こし、“•”マークを矢印の方向へ回してバッテリー室カバーをはずします。(⊖→⊂)





2 電池をバッテリー室内の＋－表示に従って正しく入れます。⊕⊖を間違えるとカメラは作動しません。

※カメラに同梱されている電池はサンプルです。作動確認用としてご利用ください。

電池は目的に応じて、次のものをご使用ください。

①アルカリ乾電池(1.5V単3形6本)
一般的標準電池としておすすめします。

②ニッカド電池(1.2V単3形6本)
特に低温での使用時におすすめします。

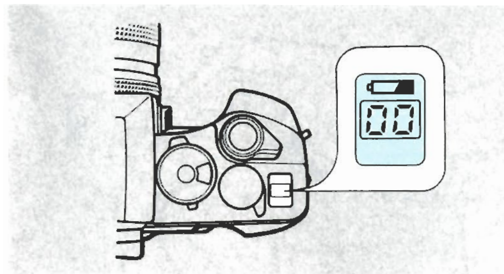
③リチウム電池(6V・2CR5 1個)
自然放電が少いので長期間同一バッテリーを使用するときや、予備バッテリーとして携行するときにおすすめします。

なお、他の電池よりも電圧が低いため、低温時での使用はおすすめできません。

3 カメラのガイドピンにバッテリー室カバーの取付け穴を合わせ、カバーを元通りにかぶせます。着脱ノブを矢印の方向へ止まるまで回して固定します。(Ⓒ→Ⓔ)

> RTSⅢは、アルカリ乾電池、ニッカド電池及びリチウム電池が使えるようになっております。これらのバッテリーのうち、RTSⅢの性能をフルに発揮していただくためには単3形アルカリ乾電池の使用をお勧めします。

バッテリーチェック



表示パネルに"▭"(バッテリー警告マーク)が表示されないときは、電池の電圧は正常です。
表示パネルの表示内容はP17をご覧ください。

〈電池の交換〉

表示パネルに"▭"マークが点灯したら、電池交換の時期です。メインスイッチをOFFにしてからカメラのバッテリー室カバーを開けて、新しい電池と交換してください。

● "▭"マークが点灯してからも撮影はできますが、すみやかに電池交換してください。電池容量が使用限界を超えると、表示パネルの"▭"マークが点滅または消灯し、カメラは作動しなくなります。

〈電池取扱い上の注意〉

●電池の交換は種類の違うものや古いものを混ぜたりしないで、6本とも同じ種類の新品電池と交換してください。

●電池は、一般に低温(0℃以下)になると性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラをバッグや防寒具に入れて保温することをおすすめします。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻れば回復しますからそのまま使用できます。

●電池の両極を汗や油で汚したりすると接触不良の原因となりますので、乾いた布でよく拭いてから使用してください。

●使用済みの電池を火の中に捨てたり、充電や分解するのは危険ですからやめてください。

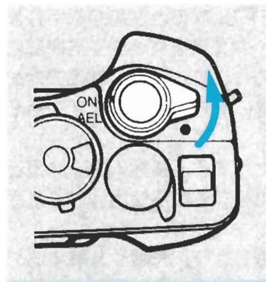
●長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。

使用バッテリーと撮影本数(36枚撮り、当社撮影基準による)

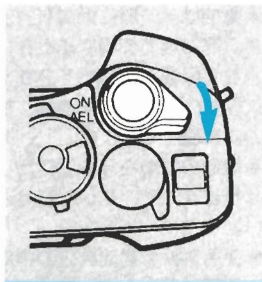
バッテリー種類	常温	−10℃
1.5V単3形アルカリ乾電池6本	約120本	約7本
1.2V単3形ニッカド電池6本	約 50本	約20本
6Vリチウム電池1個	※約120本	―――

※リチウム電池使用の場合は他の電池よりも電圧が低いため電池装着後すぐに"▭"マークが点灯することがありますが、そのままお使いください。
撮影本数は"▭"マークが点滅してカメラが作動しなくなるまでの本数です。

メインスイッチ



ON状態



OFF状態

電源の“OFF”、“ON”及び“AEL”(AEロック)の切替えを行います。

OFF：赤マークが見えないとき

カメラの電源が切れ、OFFの状態になっています。カメラを使わないときは、不用意にシャッターが切れないようにメインスイッチをOFFにしてください。

“ON”マーク

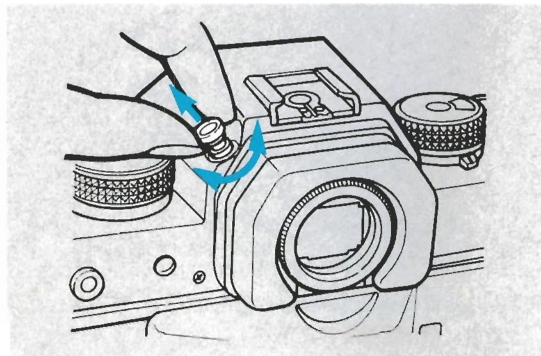
カメラの電源が入ります。

“AEL”マーク

測光時の露出をそのまま固定します。逆光時での撮影や動く被写体を一定の露出で連続撮影したいときなどにもこのAEロックを使います。

● AEロックについてはP37をご覧ください。

視度調整



このカメラには視度調整機構が内蔵されております。視度調整ツマミを引き上げ回転させて、ファインダー内中央の円がはっきり見えるように調整してください。調整範囲は＋1〜−3ディオプターです。

● 調整後はツマミを押し込んでください。

● カメラの視度調整機構の範囲内で、視度調整ができないかたは、別売りの視度補正レンズFMタイプをお買い求めください。

フィルム感度設定は、DXコード利用による自動設定と手動による設定の2通りがあります。

〈DXコードによる自動設定〉

露出補正ダイヤルを引き上げながら回し、フィルム感度表示内の“DX”マークを指標に合わせ、クリックの位置に落し込みます。

DXマーク付きのフィルムを使うと、カメラがフィルム感度を自動設定します。DXフィルムはISO 25~5000まで使用できDXマークと感度は、フィルムの外箱に表示されています。

●自動設定されたフィルム感度はカメラには表示されません。

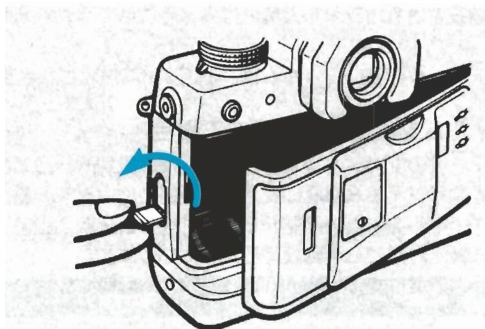
●DXマークのないフィルムは、ISO100に設定されます。

〈フィルム感度を手動設定する場合〉

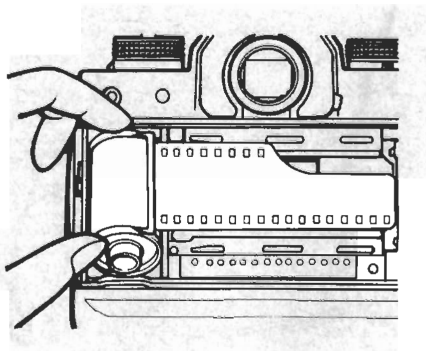
DXマークのないフィルムのフィルム感度設定や、DX表示と異なるフィルム感度に変えたい場合に使います。露出補正ダイヤルを引き上げながら回して設定します。DXフィルム装てん時でも手動設定した値になります。

フィルム感度はISO 6~6400の範囲で1/3段毎に設定できます。

フィルムの入れかた



1 裏ぶた開放ノブを起こし矢印方向に回して、裏ぶたを開けます。開けた後、裏ぶた開放ノブは、元の位置に収納しておいてください。



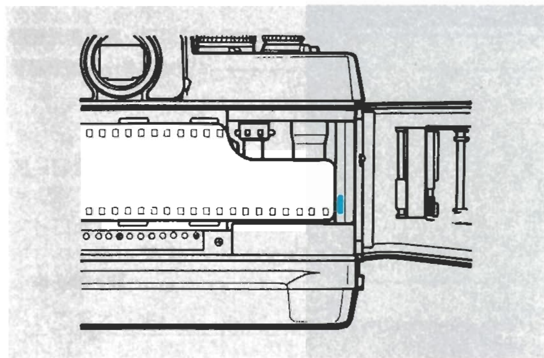
2 図のように、フィルムパトローネ先端を斜めにして入れます。

シャッター幕について

シャッター幕は精密部品ですので絶対に指で触れたり、フィルムの先端でついたりしないでください。特にフィルムの先端がシャッター幕の上にある状態では、絶対にシャッターを切らないでください。

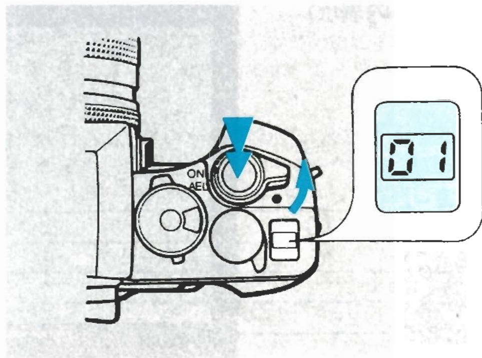
●DX接点やデータバック接点は、むやみに触れたり、汚したりしないように注意してください。

●フィルムの出し入れは、直射日光を避けてください。



3 フィルムの先端をオレンジ色の“ ━ ”マークの位置まで引出し、そのままスプールの上にのせます。
このとき図のようにフィルムが浮き上がらないようにしてください。
◉フィルムの先が長く出ている場合は、あらかじめ巻戻して長さを調節してください。

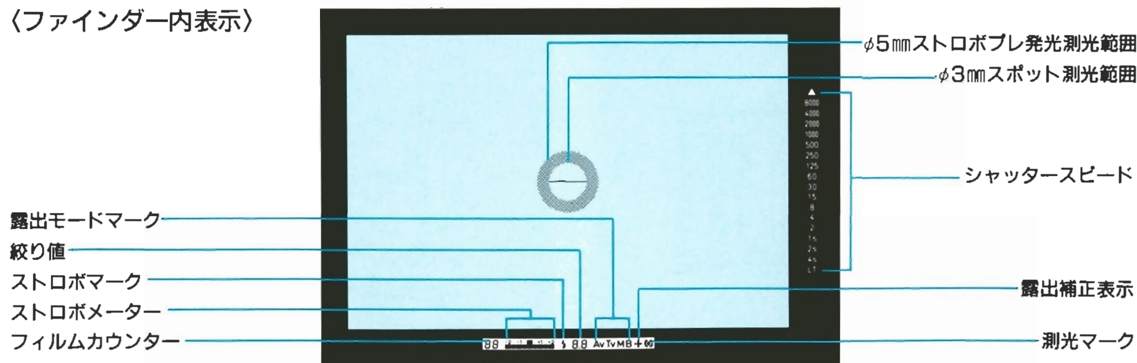




4 裏ぶたを閉めメインスイッチをONにしてレリーズボタンを押すと、表示パネル“ ▸▸ ”マークが点滅しフィルムが自動的に空送りされ、フィルムカウンターは“01”になります。
◉フィルムカウンターが“00”のままの場合は、フィルムが正しく送られていません。裏ぶたを開け、もう一度入れなおしてください。
◉フィルムカウンターは表示パネルとファインダー内表示の両方で確認できます。
◉フィルム確認窓で、フィルムの有無がわかります。

ファインダー内表示及び表示パネル

〈ファインダー内表示〉



表示はバックライト方式を採用し、次の操作をしたときに表示され、16秒間表示したあと自動的に消える省電設計になっています。

①メインスイッチをONにしたとき。

②メインスイッチONの状態で

■レリーズボタン、露出チェックボタン、絞込みボタンを押したとき。

■ストロボブレ発光レバー、巻戻しレバーをONにしたとき。

また表示中にダイヤル等を切替えたときは、表示は更に16秒間延長されます。

シャッタースピード

シャッタースピードは1/8000秒から４秒、ＬＴ(6～32秒)が表示され、8000は1/8000秒、4sは４秒を示します。

２個表示されているときは、その中間値を示します。また"▲"マークの点滅は露出オーバーを、"ＬＴ"の点滅は露出アンダーを意味します。

シャッタースピードの測光値は、点灯で表示します。露出モード"Tv"、"M"または"ＡＥＬ"でシャッタースピードを固定した場合には、点滅表示となります。またストロボ自動切替え時のシャッタースピードも点滅に変わります。

フィルムカウンター

フィルムが巻上げられるごとにコマ数は１コマずつ進み、

巻戻し時は減算表示します。
また、カウンター機能以外に次のような表示もします。
■バルブ作動中の時間表示（00～59秒までの繰返し）。
（バルブ専用ケーブルレリーズソケット使用時は除く。）
■セルフタイマー時の残り時間表示（10秒～00まで）。
■３コマ連続自動露出補正時の作動順序表示。
■撮影フィルム終了表示。

ストロボマーク

ＴＬＡフラッシュシステム使用時、充電が完了すると“⚡”マークが点灯します。

ストロボメーター

ストロボプレ発光“ON”のとき±２ＥＶの範囲で、適正露出からの誤差量を1/2ＥＶステップでバーが点灯します。誤差量が±２ＥＶを超えるときは、該当する側のバー表示が全て点滅します。またＴＴＬダイレクト調光によるストロボ撮影後の調光状態を４秒間表示します。

絞り値

絞り優先オート撮影とマニュアル露出撮影のときはセットした絞りを、シャッター優先オート撮影のときはシャッター速度に応じた絞りを表示します。

露出モードマーク

露出モードを表示します。“Av”は絞り優先オート、“Tv”はシャッター優先オート、“M”はマニュアル、“B”はバルブを示します。

露出補正表示

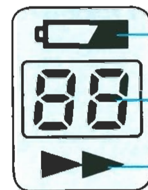
露出補正ダイヤルを“0”以外の値にすると“＋”または“－”のマークが点滅します。

測光マーク

測光方式とＡＥロックの表示をします。
中央重点測光のとき：“〔〕”マークが点灯します。
スポット測光のとき：“〔●〕”マークが点灯します。
中央重点測光のＡＥロック：“〔〕”マークが点滅します。
スポット測光時のＡＥロック：“●”マークが点滅します。

> **ファインダー内の光量低下について**
> 長焦点レンズ使用時またはオートベローズや接写リングを使用してカメラからレンズを繰り出して撮影する場合、ファインダー内上側の光量が低下したり、影がでたりすることがあります。いずれの場合もファインダー内だけに現れる現象で実写画面には現れません。

〈表示パネル〉

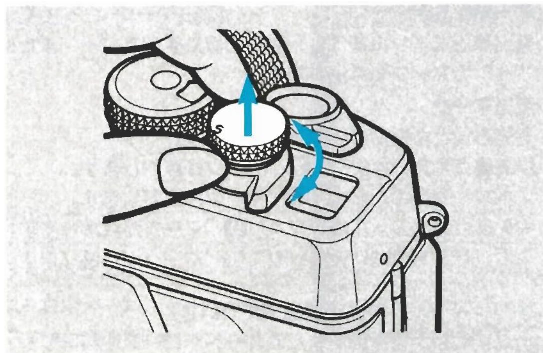


バッテリー警告マーク
詳細はＰ11“バッテリーチェック”をご覧ください。

フィルムカウンター
メインスイッチＯＦＦのときも、フィルムの撮影枚数を表示します。

フィルム給送マーク

ドライブモード切替えダイヤル



撮影目的に応じて次のドライブモードを選ぶことができ、ドライブモード切替えダイヤルを引き上げながら回してセットします。

S…1コマ撮影

カメラのレリーズボタンを押すごとに1コマ分撮影され、次の巻上げが行われて停止します。

CL、CH…連続撮影

カメラのレリーズボタンを押している間、最高約3コマ／秒（CL）または約5コマ／秒（CH）の連続撮影ができます。（撮影コマ速度は、シャッタースピードや使用する電池の状態により変化します。）

電池別連続撮影コマ速度
(シャッタースピード1/250秒以上、ISO32以上)

使用電池	ドライブモード	
	CL	CH
アルカリ乾電池	約3コマ/秒	約 5コマ/秒
ニッカド電池	約3コマ/秒	約4.5コマ/秒
2CR5	約2コマ/秒	約3.5コマ/秒

※新品電池使用時

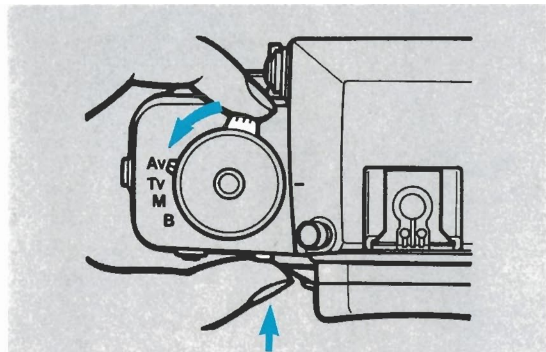
2、10…セルフタイマー撮影

2秒または、10秒のセルフタイマー撮影ができます。
詳細はP42をご覧ください。

…多重露出撮影

P43をご覧ください。

露出モード切替えレバー

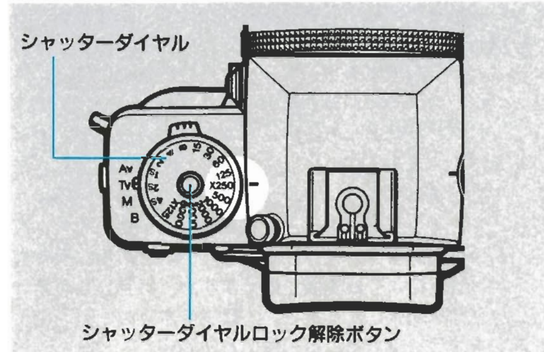


絞り優先オート、シャッター優先オート（MMレンズ装着時のみ)、マニュアル露出及びバルブの各露出モードの切替えを行います。露出モードロック解除ボタンを押しながら、露出モード切替えレバーをセットします。
各露出モードの詳細はP24〜32をご覧ください。

〈露出チェックボタン〉

メインスイッチONのとき、露出チェックボタンを押すとファインダー内表示が点灯し、露出を確認することができます。また、レリーズボタンの半押しでも露出を確認することができます。

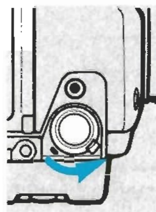
シャッターダイヤル



撮影フィルムの露光時間を調節するもので、シャッター優先撮影及びマニュアル撮影時に使用します。
シャッタースピードはX125(1/125秒)、４秒〜1/8000秒の範囲で１段ごとにセットでき、X125のみロックします。

カメラの構えかた

ピントが合った美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントが悪い写真の多くはカメラブレが原因ですので、カメラに慣れるまで練習をしてください。カメラを左手の手のひらに乗せ、レンズの距離リングを指で回せるように持ち、右手はグリップ部でカメラを保持し、人差し指をレリーズボタンの上に軽くおきます。左ひじを体につけ、カメラを顔に軽く押しつけるようにしてファインダーをのぞき、右手にはあまり力を入れず静かにレリーズボタンを押してください。カメラは横位置のほか、状況により縦位置で構えますが、いずれも自分にあった姿勢を研究してください。建物や木立などを利用して体やカメラを支えることも良い方法です。



〈縦位置レリーズボタンの利用〉

人物撮影など縦画面で撮影するときは縦位置レリーズボタンが便利です。無理な姿勢をせずに自然な構えでシャッターを切ることができます。
縦位置レリーズロックレバーを矢印の方向に止まるまで回して、ロックを解除してください。
使用しないときは、レバーを赤マークがかくれる位置まで回してください。

ピントの合わせかた





RTSⅢには、フォーカシングスクリーンFV Ⅰ(水平スプリット/マイクロプリズム式)が標準装備されています。ピント合わせは、ファインダー中央の水平スプリット部、及びマイクロプリズム部、または周辺のマット面で行います。

〈水平スプリット部の場合〉

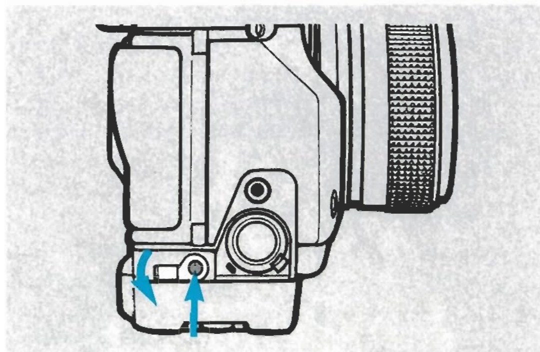
ファインダーをのぞきながら距離リングを回して、中央にある上下に分割された像が一致するようにします。ピントが合っていないときは、スプリット部の像がズレます。

〈マイクロプリズム部、及びマット面の場合〉

距離リングを回して、マイクロプリズム部か周辺のマット面の像がはっきり見えるようにします。ピントが合っていないときは、マイクロプリズム部ではギザギザに、マット面ではボケます。

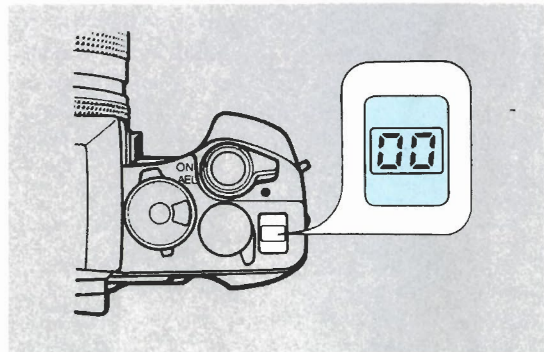
●暗いレンズを使用したときや、高倍率での接写時には、ピントが合わせにくくなることがあります。このときは周囲のマット面でピントを合わせてください。

フィルムの巻戻し



撮影フィルムを全部写し終ると、巻上げが止まり、フィルムカウンターに表示されているカウント値の上桁、下桁が交互に点滅します。

1 メインスイッチをONの状態で、巻戻しロック解除ボタンを押しながら、巻戻しレバーを矢印の方向に回すと、フィルムの巻戻しが行われます。
フィルムカウンターが減算表示され、巻戻しが終了するとモーターが停止しカウンターは“00”の表示になります。
●巻戻しが始まったときは巻戻しレバーから必ず手を離してください。巻戻しレバーは自動的に元に戻ります。
●巻戻しは、パトローネの外にフィルム先端を残して終了



します。フィルムを全部パトローネに巻込みたいときは、巻戻し終了後もう一度１の操作を行ってください。

2 モーターが停止し、フィルムカウンターが“00”になったのを確認してから裏ぶたを開け、フィルムを取出します。取り出しは直射日光を避けてください。

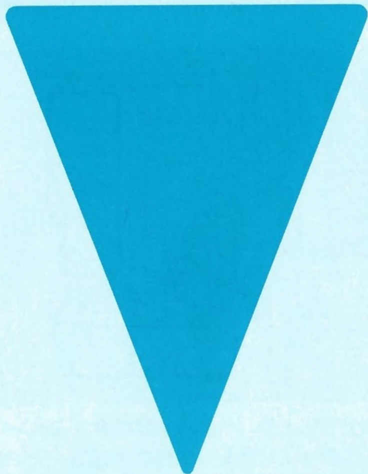
●フィルムの途中からの巻戻しも１、２の順で行ってください。
●巻戻し後は、必ずフィルムを取出してください。巻戻し後は、一度裏蓋を開けるまでカメラは作動しません。

RTV（リアルタイムバキューム）機構

セラミック圧板とＲＴＶ機構を採用することにより、従来方式では不可能であった1ランク上のフィルム平面性を保つことが可能になりました。

ＲＴＶ機構は、シャッターの先幕走行直前にフィルムを圧板に吸引し、後幕走行後に吸引状態を解除する機構で“Ａv、Tv、M”の各露出モードで作動します。

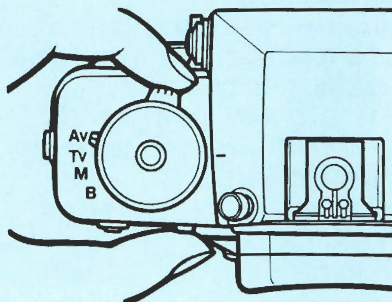
- 露出モード“B”(バルブ）では吸引しません。
- “▭”マークが点灯し、バッテリー警告の状態のときは省電のため吸引は行いません。



撮影操作と応用テクニック

露出モードの選択

撮影目的や用途に応じて、次の露出モードが選べます。



Av：絞り優先オート

あらかじめ絞りをセットすることにより、被写体の明るさに応じてシャッタースピードを自動的にコントロールし、適正露出を得ます。被写界深度を利用しての撮影に適しています。

Tv：シャッター優先オート（MMレンズ装着時のみ）

あらかじめシャッタースピードをセットすると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に選定され、適正な露出の写真が撮れるようになっています。動きのあるスポーツなどの撮影に適しています。

M：マニュアル露出

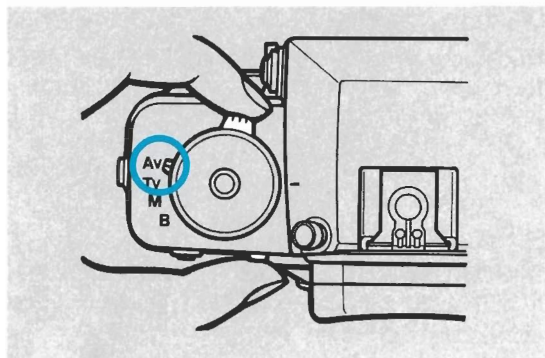
絞りとシャッタースピードを撮影意図や目的に合わせて任意にセットし、撮影する方法です。また意図的に露出オーバーやアンダーにすることも簡単にできます。

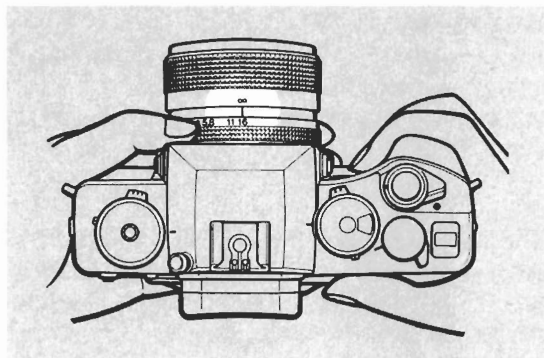
B：バルブ

長時間露光を必要とする夜間撮影や天体撮影を行うときバルブ撮影を行います。レリーズボタンを押している間シャッターが開いて露光されます。

◉AEレンズ装着のときは、"Tv" モードで撮影することはできません。"Tv" モードにセットされていても露出モードは "Av" モードになります。
◉レンズ未装着のときは、"Tv" モードにセットされていても自動的に "Av" モードになります。

絞り優先オート撮影





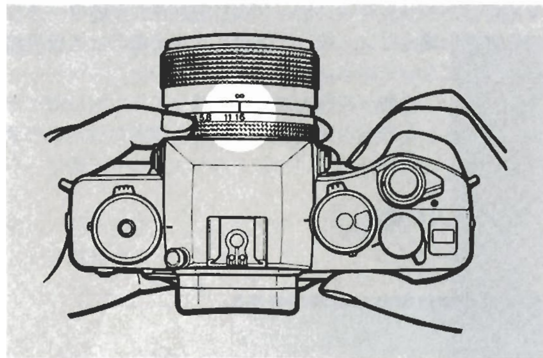
1 露出モード切替えレバーを“Av”にセットします。

2 絞りをセットし、撮影します。

レンズの絞りリングを回して絞りをセットすると、絞りに応じた適正シャッタースピードが自動セットされます。

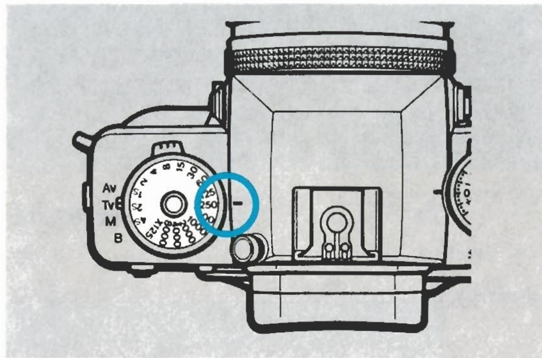
ファインダー内表示には、セットした絞りと自動セットされたシャッタースピードが点灯します。

シャッター優先オート撮影



1 絞りを緑色の最小絞りにし、露出モード切替えレバーを“Tv”にセットします。

MMタイプレンズでは、プログラムオートまたはシャッター優先オート撮影時のセット位置として絞りリングの最小絞りが緑色で表示されています。



2 シャッタースピードをセットし、撮影します。

シャッターダイヤルを回してシャッタースピードをセットすると、シャッタースピードに応じた適正絞りが自動セットされます。

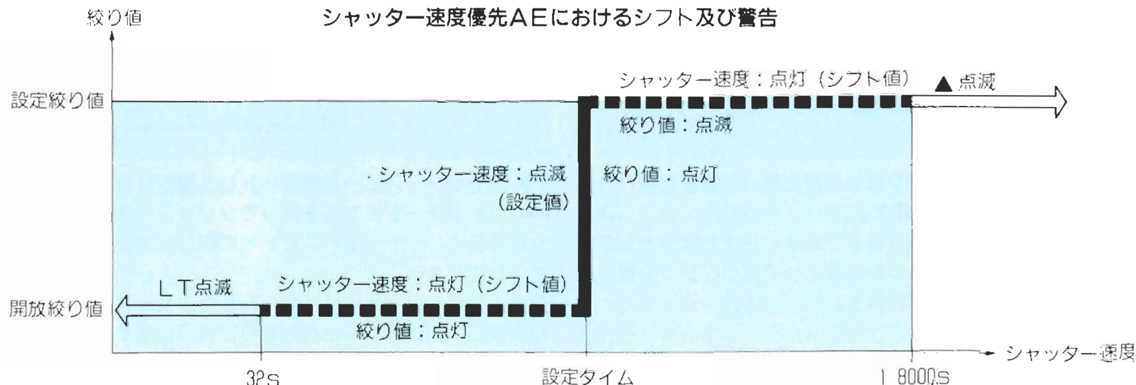
ファインダー内表示には、セットしたシャッタースピードが点滅し、自動セットされた絞りが点灯します。

設定シャッタースピードでは、適正絞り値が絞り範囲外になるとき適正露出を得るため自動的に違うシャッタースピードにシフトされ、常に適正露出になるよう調整されます。このときシフトするシャッタースピードは点灯表示になります。

◉設定したシャッタースピードよりも適正シャッタースピードが速い場合には、絞りが点滅します。このとき絞りが最小絞りになっているか確認してください。

◉MMレンズを最小絞りとは異なる絞りにセットしたときは、セットした絞りと開放の間で絞りが自動セットされます。

シャッター速度優先ＡＥにおけるシフト及び警告



〈オート撮影時の露出オーバー／アンダー警告〉

露出オーバー警告

シャッタースピードが"▲"で点滅するときは、露出オーバーです。被写体が明るすぎますので、絞りを調整し直して、シャッタースピード表示が点灯になるようにしてください。

また、別売りのNDフィルター（光量制限用）で光を調整することができます。



露出アンダー警告

シャッタースピードが"LT"で点滅するときは、露出アンダーです。被写体が暗すぎますので、照明を加えて被写体を明るくしたり、絞りを変えたりして"LT"が点灯するようにしてください。

また、専用のストロボを使うと明るくきれいな写真が撮れます。

●露出オーバー／アンダー警告時でも、レリーズボタンを押せば撮影できます。

〈アクセサリー使用上の注意〉

開放F値が5.6より暗いレンズ、または自動絞りの連動しないアクセサリー（オートベローズPC、マイクロスコープアダプター、接写リング7.5mm、リバースリングなど）を使用する場合は次のことに注意してください。

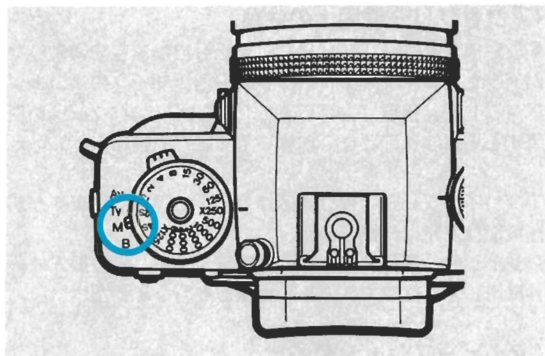
①ファインダー内の絞り表示は"1.4"に固定されますが測光機能は正常に作動します。

②シャッター優先オート撮影はできません。絞り優先オート撮影、またはマニュアル露出撮影を行ってください。

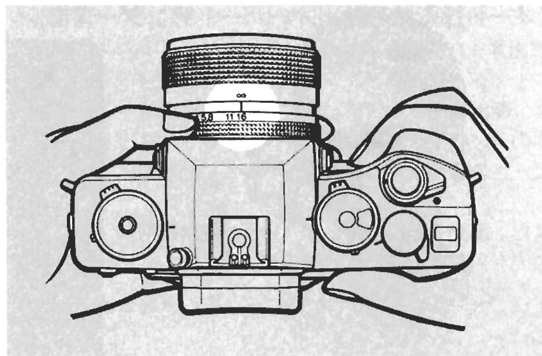
〈アイピースシャッター〉

セルフタイマーやリモートコントロールシステムを利用してのオート撮影（Av、Tvの各モード）では、ファインダー接眼部から顔を離しますので、接眼部から入る光が測光に影響を及ぼすことがあります。このような撮影では、アイピースシャッターで接眼部をしゃ閉するか、またはAEロックをご利用ください。

マニュアル露出撮影



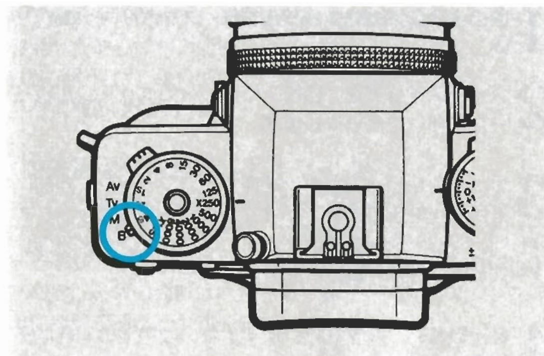
1 **露出モード切替えレバーを"M"にセットします。**



2 **シャッタースピードと絞りをセットし、撮影します。**
シャッターダイヤルを回して、シャッタースピードをセットし、絞りは絞りリングであわせます。

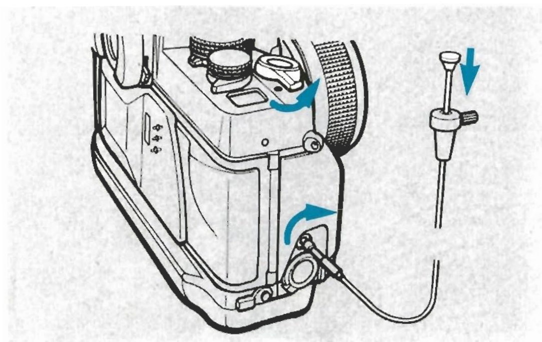
ファインダー内には、セットしたシャッタースピードが点滅、適正シャッタースピードが点灯で表示されます。シャッターダイヤルまたは絞りリングを動かし、点滅と点灯表示を一致させて（点滅）撮影してください。

バルブ撮影



露出モード切替えレバーを“B”にセットします。レリーズボタンを押している間シャッターが開いて露光されます。カメラブレを防ぐため、三脚で固定するか、安定した台などに置き、別売りのケーブルスイッチLをカメラのレリーズソケットに接続して撮影してください。

●フィルムカウンターは、バルブ撮影の経過時間を示すタイマー表示に切替わります。表示は“00”から“59秒”までカウントされ、以後その繰返し表示になります。



〈バルブ専用ケーブルレリーズソケット〉

市販のメカ式ケーブルレリーズを接続することにより、任意の時間だけシャッターを開くことができます。前記のバルブ撮影に比べ、露光中の電池の消耗がなくなります。天体写真のように長時間の露光を要する撮影時に利用します。

1 図のようにメカ式ケーブルレリーズを取り付けます。

2 メインスイッチを“ON”にし、メカ式ケーブルレリーズを押してロックします。

3 カメラのレリーズボタンを押すと、シャッターが開いて撮影が始まります。ケーブルレリーズをロックしている間、シャッターは開いたままになります。カメラのレリーズボタンを押し続ける必要はありません。

4 希望の時間、撮影を行います。この間電池の消耗はありません。

5 メカ式ケーブルレリーズのロックを解除するとシャッターが閉じ、撮影が終了します。

- バルブ専用ケーブルレリーズソケットに、別売りのケーブルスイッチL(電気式)を接続しても作動はしません。
- ロック時にケーブルが少し戻るようなメカ式ケーブルレリーズは、シャッターを開いたままにできない場合がありますので、事前にテストしてください。このようなケーブルレリーズの場合は、ロック機構を使わずにケーブルレリーズを手で押しながら撮影してください。
- 表示パネルに経過時間の表示はありません。

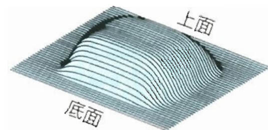
測光方式

中央重点平均測光と、画面中央部φ3㎜を測光するスポット測光があり、測光切替えレバーでセットします。撮影条件や撮影意図により使い分けると、より精度の高い効果的な写真撮影が行えます。

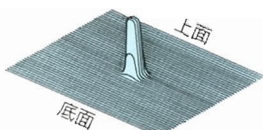
〈中央重点平均測光〉(□ マーク)

主にファインダー画面中央部の被写体の明るさを重点的に、かつ周辺部の明るさも加味して測光を行い、露出値を決定する方式です。光の変化が激しいところでもよく対応しますので、一般の撮影はもちろん、動きの激しいものでも簡単に撮影することができます。

測光感度分布図



中央重点平均測光



スポット測光

〈スポット測光〉(◙ マーク)

ファインダー画面中央φ3㎜内にあたる被写体の明るさのみを測光して、露出を決める方式です。
例えば、逆光の人物や特定の部分にライティングを生かした舞台撮影など、被写体と背景の明るさが極端に違う場合、また画面効果を考えて、特に被写体の一部分だけを測光して撮影したい場合などは、このスポット測光を利用するときれいな写真が撮れます。

●スポット測光時の連続撮影（CL、CH）では、1コマ目の露出で連続撮影します。

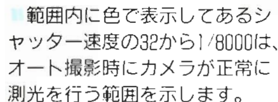
●偏光フィルター使用の撮影について

偏光フィルターは、円偏光フィルターをご使用ください。このカメラは測光系の特性上、直線偏光フィルターを使用すると測光誤差を生じることがあります。

〈測光範囲〉

表は、絞り、シャッタースピード、EV値の相互関係を示すもので、使用レンズの測光範囲を知ることができます。たとえば中央重点平均測光時にISO100のフィルムでF1.4レンズを使用した場合、絞り表のISO100の項の"1.4"と"16"(プラナーT＊50mmの最小絞り値はF16です)から斜めに延長した線上で垂直線(EV線)と水平線(シャッタースピード値)が交わる点が示す両端の範囲、すなわちEV"0"からEV"21"がF1.4レンズ使用時の測光範囲です。

※EV値とは、露出計の連動範囲を示す数値で、外光の明るさが一定のときに、フィルムに同一露光効果を与える絞りとシャッタースピードの組合せを示すものです。たとえば、表によりEV13では、F16・1/30でもF8・1/125でも同じ露光効果が得られることがわかります。



範囲内に色で表示してあるシャッター速度の32から1/8000は、オート撮影時にカメラが正常に測光を行う範囲を示します。

範囲内に色で示してある部分は、ISO100フィルムでF1.4レンズ使用時の測光範囲を示します。

露出の補正

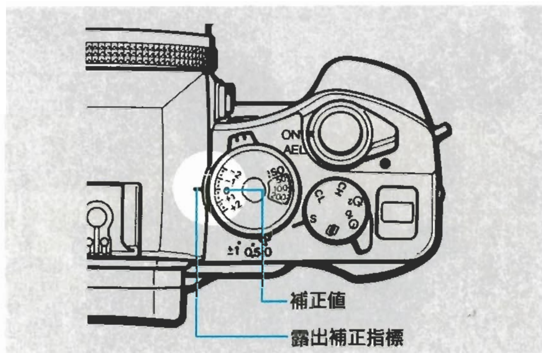
撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合、あるいは意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときには、次の3通りの露出補正方法があります。

〈1〉露出補正ダイヤルの利用

絞り優先オート、シャッター優先オート、マニュアルとも通常は露出補正ダイヤルを“0”にセットしておきますが、露出を補正するときは、露出補正ダイヤルを回して希望する補正値を露出補正指標に合わせます。補正値は+2EV～−2EVまでの範囲内で1/3EVごとにセットすることができます。

ファインダー内には、補正に合わせて“+”または“−”マークが点滅し補正中であることを示し、補正量に応じて、シャッター優先オートでは絞りが、絞り優先オートではシャッタースピードが変わります。

マニュアル露出時は、測光値のシャッタースピード(点灯)が変わりますので、シャッターダイヤルまたは絞りリングを動かし、シャッタースピードの設定値（点滅）と測光値（点灯）を一致させて（点滅）撮影してください。



撮影終了後は、必ず露出補正ダイヤルを“0”に戻してください。





逆光撮影などのときは……
“+1/3”～“+2”の範囲で補正します。

中央重点平均測光の場合、逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは、露出を+1/3～+2の範囲で補正して、露出を多く与えます。



舞台撮影などのときは……
“−1/3”～“−2”の範囲で補正します。

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、中央重点平均測光で撮影すると人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは、露出を−1/3～−2の範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。



〈2〉AEロックの利用

オート撮影時に被写体の露出（絞りとシャッター速度の組合せ）を記憶する装置です。メインスイッチを“AEL”にセットすると、セット時点の露出がカメラに記憶され、そのままレリーズボタンを押すと背景の変化に関係なく記憶された露出でシャッターが切れます。

1 意図する構図のうち、まず主要被写体にファインダーの中央部分を向け、メインスイッチを“ON”→“AEL”に切替えます。これで露出が固定されます。

特に狭い範囲に露出を合わせたいときは、測光切替えレバーをスポット測光にしてAEロックしてください。

◉AEロック中は、ファインダー内の測光マークが点滅に変わります。

◉AEロック作動時は、何度でも同じ露出値で撮影できます。

◉AEロック中に測光モードを切替えても、前の測光値が継続してロックされます。

◉AEロック中にフィルム感度や露出補正ダイヤルを変更すると、露出は次のようになります。

Avモード：制御シャッタースピードが変化します。
Tvモード：制御絞りが変化します。

◉AEロックのセットは、ファインダー内表示が点灯しているときに行ってください。

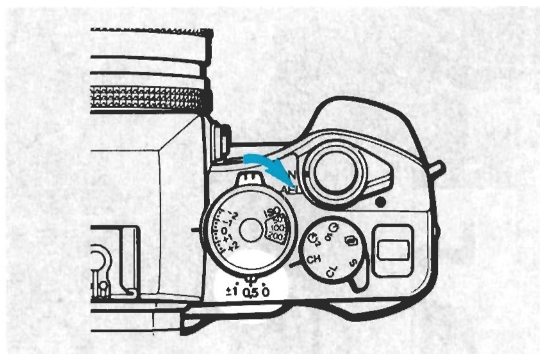


2 ファインダーを元の意図した構図に戻して撮影します。

◉AEロック中は、露出が記憶され続けますが、表示は省電のため16秒経過後に消灯します。

◉連続撮影（ドライブモード“CL”“CH”）するときも、あらかじめ被写体の明るさをAEロックしておけば背景の変化による影響を受けずに同じ露出の写真が得られます。

◉このカメラは、シャッタースピードと絞りの組合せで得られる露出を記憶する、像面光量記憶方式を採用しています。例えば、“Av”モード使用のときは、AEロック後に絞りを変えるとシャッタースピードも追従し、全体の露出量を一定に保ちます。



〈3〉A·B·C撮影
(3コマ連続自動露出補正の利用)

ファインダーの中で被写体を追い続けながら、スタンダード、オーバー、アンダーと3段階の露出バリエーションで連続撮影ができ、非常に微妙な露出条件のもとでも、露出決定に心を奪われることなくシャッターを押し続け、チャンスを確実にものにすることができます。

1 A・B・Cレバーを動かし、補正幅をセットすると、A・B・C撮影に切替わります。

補正幅は±0.5EV、±1EVの2種類が設定できます。

A・B・C撮影は次の露出モードで行え、シャッター及び絞りで自動露出補正を行います。

露出モード	コントロール内容
絞り優先オート (Av)	シャッタースピード
シャッター優先オート (Tv)	絞り（絞りの制御範囲を越える場合はシャッタースピードを自動的にコントロールします。）
マニュアル (M)	シャッタースピード

●露出補正ダイヤルを0以外に設定すると、その補正値を基準にしたA・B・C撮影になります。

●周囲の明るさの変化による影響を受けずにA・B・C撮影がしたいときは、あらかじめAEロックをかけてから撮影することをおすすめします。

●A・B・C撮影が終了したら、必ずA・B・Cレバーを“0”に戻してください。

●ストロボを併用するA・B・C撮影はできません。


スタンダード


オーバー


アンダー

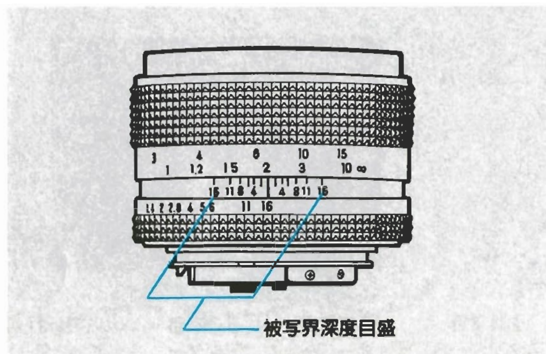
2 ドライブモードを連続撮影“CL”または“CH”にしレリーズボタンを押し続けると、セットした補正幅に従って、スタンダード、オーバー(+)、アンダー(−)の順で補正し、3コマ撮影し終ると止まります。
さらにレリーズボタンを押し直すと、同じ作動が何度でも繰返し得られます。
◉ドライブモードを“S”または“⧉”にすると1コマごとのA・B・C撮影になり、“Ꮼ2”または“Ꮼ10”にすると、レリーズボタンを押したあと、2秒または10秒後に連続撮影によるA・B・C撮影になります。

A・B・C撮影中は撮影順序を示すため、フィルムカウンターが次のように変化します。例えば18コマ目よりA・B・C撮影を行った場合は次のようになります。

1コマ目 スタンダード	2コマ目 オーバー	3コマ目 アンダー	以後繰返し スタンダード
			
左右点滅	左側点滅	右側点滅	左右点滅

◉補正幅がカメラの補正限界を越えるときは、限界補正値で撮影されます。
◉途中でキャンセルするときは、A・B・Cレバーを“0”にしてください。
◉A・B・C作動中にメインスイッチを“OFF”にして再度“ON”にすると、A・B・C撮影はまた1回目より順に3コマ分行われます。

被写界深度について



レンズの一般的性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。同じレンズでの被写界深度は次のように変化します。

①絞りを絞り込むほど被写界深度が深く、開放にするほど浅くなります。

②被写体の距離が遠いほど被写界深度が深く、近いほど浅くなります。

③ピントを合わせた被写体の後方に深く、前方に浅くなります。また異なるレンズでは、焦点距離の短いレンズほど深く、焦点距離の長いレンズほど浅くなります。

被写界深度の具体的な範囲は、個々のレンズの被写界深度目盛で確認することができます。例えば50mmF1.4標準レンズで2mの距離にピントを合わせ、絞りをF16にセットした場合は、被写界深度目盛16に対応する距離、すなわち約1.4mから約5mまでピントが合うことになります。

〈絞り込みボタン〉

ファインダーは、常に絞り開放の状態になっていますが、このボタンを押すとセットした絞り値まで絞り込まれ（ファインダー内は絞り値に応じて暗くなります）、そのとき被写界深度や背景のボケ具合を見ることができます。

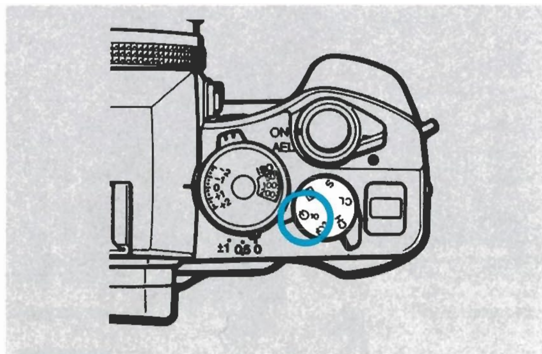
●絞り込みボタンを押したままレリーズボタンを押してシャッターを切ることはできません。

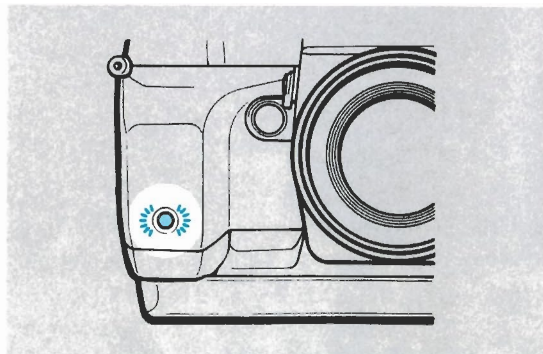
●Tvモード時の絞り込み作動はできません。

F1.4

F16

セルフタイマー撮影





セルフタイマー撮影は、2秒と10秒の2種類があります。

1 あらかじめ被写体にピントを合わせ、ドライブモード切替えダイヤルを“Ò2”または“Ò10”に合わせておきます。

◉バルブ設定時はセルフタイマーは使用できません。
◉セルフタイマー撮影時は、三脚をご使用ください。

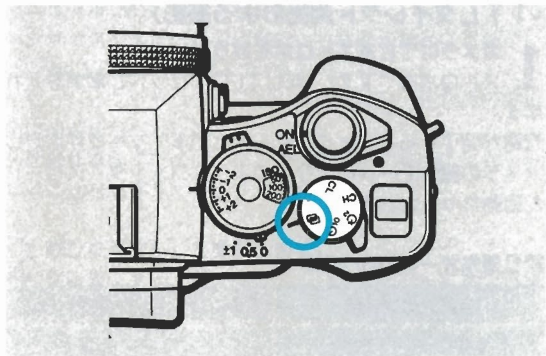
2 レリーズボタンを押すとセルフタイマーが作動し2秒または10秒後にシャッターが切れます。

セルフタイマー作動中、フィルムカウンターは、シャッターが切れるまでの残り時間(秒)を示す表示になり、セルフタイマーLEDが点滅します。

◉オート撮影(Av、Tv)時は、接眼部から入る光が測光に影響しないように、アイピースシャッターで接眼部をしゃ閉するかAEロックをご使用ください。
◉セルフタイマー作動中にレリーズボタンを押すと、カウンターはまた最初に戻り残り時間をカウントします。
◉次の操作をすると、セルフタイマーの作動は途中解除されます。

- メインスイッチをOFFにしたとき。
- ドライブモードを切替えたとき。
- 巻戻しレバーをONしたとき。
- 絞込みボタンを押したとき。
- 撮影モードを“B”にしたとき。

多重露出撮影



同じ画面に違う種類の被写体、あるいは同じ被写体を重ねて写し込むことにより、独特の写真表現ができます。

1 ドライブモード切替えダイヤルを引き上げて多重露出モード“⧉”にセットします。

2 レリーズボタンを押して1回目の露光を行います。シャッターを切ると、自動的にドライブモードは“S”に復元し、次の撮影のためにシャッターだけがセットされます。このときフィルムは送られずフィルムカウンターも停止したままです。

3 レリーズボタンを押して2回目の露光を行います。3回以上の多重露出撮影は1、2の繰返しを行うか、または指でドライブモード切替えダイヤルを多重露出の位置に固定しながら1回ごとレリーズボタンを押します。

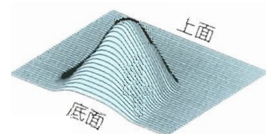
TLAフラッシュシステムとストロボプレ発光機能

RTSⅢとコンタックスTLAフラッシュシステムを組み合わせるとカメラ側でストロボ光を自動制御する“TTLダイレクト測光”による撮影ができます。また、ストロボプレ発光機能は、撮影前にストロボを発光させてTTLのスポット測光を行う機構で、従来とくらべ、より正確な露出でストロボ撮影が行えます。

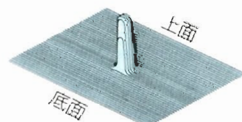
このストロボプレ発光機能は、コンタックスTLAストロボ及び、専用ストロボ連動接点のないX接点のみの汎用ストロボも使用できます。

- ストロボ撮影時は、全ての露出モードにおいて絞りは自動セットされません。
- コンタックスブランド以外の連動接点を利用する当社製ストロボ(CS-250AFなど)は使用できません。

測光感度分布図



TTLダイレクト測光



プレ発光TTLスポット測光

〈TTLダイレクト測光による撮影〉

1 カメラにTLAストロボを取り付けます。

ストロボを“TTL AUTO”にセットし電源を入れます。

充電が完了するとファインダー内に“⚡”マークが点灯しカメラの撮影モードにより次のようにシャッタースピードが自動セットされます。

絞り優先オート(Av)の時

自然光の測光値	自動セットシャッタースピード表示
LT ～ 1/60秒	60 点滅
1/60秒 ～ 1/250秒	60～250＊点滅
1/250秒～1/8000秒	250＊点滅

シャッター優先オート(Tv)の時

シャッターダイヤルのセット値	自動セットシャッタースピード表示
4秒～ 1/250秒	4s～250(シャッターダイヤルのセット値のまま)
1/500秒～1/8000秒	250＊点滅

＊自動セットされた“250”点滅表示のシャッタースピードは1/200秒になります。

マニュアル(M)、バルブ(B)の時

・シャッタースピードは自動セットされませんので必ず1/250秒以下にセットしてください。

・セットしたシャッタースピードは点滅し、自然光の測光値は点灯表示されます。

・誤動作を防ぐために、ロック機構付の“X125”にセットすることをおすすめします。

2 絞りをセットして撮影します。

撮影後ファインダー内のストロボメーターに調光結果が４秒間表示されます。

調光表示

調光結果	表示	
適正	-2 -1 ■ +1 +2	点灯
オーバー	-2 -1 ■■■■■ +1 +2	点滅
アンダー	-2 -1 ■■■■■ +1 +2	点滅

注意事項

◉ストロボメーターがオーバー・アンダーを表示した時は調光範囲外ですので、絞りや撮影距離を変えて撮影してください。

◉TTLダイレクト測光での調光結果表示は適正・オーバー・アンダーの３段階表示となり、中間値の表示は行いません。

◉A・B・Cレバーは必ず“0”にしてください。

◉ドライブモードは１コマ撮影またはセルフタイマー撮影でご使用ください。連続撮影モード（CL・CH）でのストロボ連続撮影はできません。

◉フィルム感度はISO25～400に連動します。
（露出補正は含みません。）

〈TLAストロボを利用したスローシンクロ撮影〉

ストロボ撮影で夕景や夜景の情景を生かした撮影を行うには1/30秒以下のスローシンクロ撮影が有効です。
TLAストロボを利用すると簡単な操作でスローシンクロ撮影が行えます。

露出モード“Av”のとき

メインスイッチを“AEL”にセットします。
シャッタースピードが自然光の測光値にロックされますのでストロボの充電完了を確認して撮影してください。

露出モード"Tv"、"M"のとき

ストロボ充電完了後、シャッターダイヤルまたは絞りを動かしてシャッタースピードのセット値(点滅)と測光値（点灯）を一致させて撮影してください。

◉スローシンクロ撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、手ブレ防止のために三脚をご使用ください。

■デイライトシンクロ撮影

屋外での撮影時に、たとえば強い日差しの下や逆光下でそのまま人物を撮影すると、人物は暗くなりがちです。このようなときは、ストロボを使って撮影すると人物も背景もきれいに描写することができます。

◉自然光の測光値が1/500秒以上の値で点灯しているときは、絞りを絞って1/250秒以下の点滅表示に合わせて撮影してください。

◉露出モード"M"の時は必ず1/250秒以下のシャッタースピードにセットしてください。

■露出補正ダイヤルの利用

ストロボ光量を調整して効果を出したいときは、露出補正ダイヤルを利用してください。

〈プレ発光TTLオートストロボ撮影〉

TLAストロボを使ってプレ発光を行うと、ストロボの調光時間（発光量）を記憶することができます。

1 カメラにTLAストロボをセットします。

◉撮影モードとシャッタースピード及び表示については"TTLダイレクト測光による撮影"の項を参照してください。

2 ストロボの電源を"ON"にして充電完了を確認します。

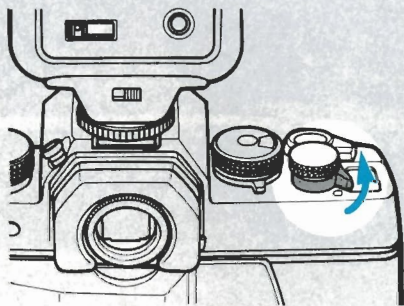
◉TLA増灯システムでストロボを増灯した時は、すべてのストロボの充電完了を確認してください。

3 絞りをセットし、測光したい被写体にカメラを向けて、ストロボプレ発光レバーを矢印方向に回します。

カメラが自動的に絞り込みを行いストロボが発光します。（このとき撮影は行われません）

ファインダー内のストロボメーターに適正値からの誤差量が±2EVの範囲で表示され、同時に調光時間（発光量）を記憶します。

◉測光範囲はファインダー中央部ϕ5㎜の円内(マイクロプリズム外側の円）です。



4 ストロボメーターが適正値を示した場合は、ストロボの充電完了を確認して撮影してください。
ストロボメーターが適正値以外を示した場合は、絞りを調整して適正表示にし撮影してください。
絞りで調整しきれない場合や、測定値が±2EVを超えて点滅表示した場合は、絞りを設定しなおして再度プレ発光させてください。
●プレ発光レバーを戻さない限り、調光時間（発光量）は記憶されつづけますので同じ調光時間（発光量）で何度でも撮影できます。
●プレ発光前に露出補正がされているときは、補正を加えた値を中心に±2EVの範囲で表示されます。

●フィルム感度はISO25〜800に連動します。（露出補正は含みません。）

〈プレ発光TTLマニュアルストロボ撮影〉

TLAストロボをマニュアルで使用する時や、汎用ストロボを使用した時もプレ発光によるTTL測光が可能です。

1 カメラのアクセサリーシューまたはシンクロターミナルにストロボを取付けます。

2 カメラの露出モードを“M”にします。シャッタースピードを1/250秒以下にし、絞りをセットします。
●シャッタースピードは誤動作を防ぐために、ロック機構のある“X125”にセットすることをおすすめします。

3 接続したすべてのストロボの充電完了を確認してください。測光したい被写体にカメラを向けて、ストロボプレ発光レバーを回します。
カメラが自動的に絞り込みを行いストロボが発光します。（このとき撮影は行われません）
ファインダー内のストロボメーターに適正値からの誤差量が±2EVの範囲で表示されます。
●測光範囲はファインダー中央部φ5㎜の円内（マイクロプリズム外側の円）です。

4 ストロボメーターが適正値を示した場合は、ストロボの充電を確認して撮影してください。

ストロボメーターが適正値以外を示した場合は、絞りを調整して適正表示にして撮影してください。絞りで調整しきれない場合や、測定値が±２ＥＶを超えて点滅表示した場合は、絞りを設定しなおして再度プレ発光してください。

◉1/250秒で同調しない大型ストロボもありますので、事前にテスト撮影することをおすすめします。

◉プレ発光は電子スイッチを用いてストロボ発光をする機構になっています。このため一部のストロボではプレ発光によるストロボメーター測光が出来ない場合があります。

〈後幕シンクロ撮影〉

後幕シンクロは動きのある被写体をスローシンクロ撮影するときに効果があります。

通常のストロボ撮影は、シャッターの先幕が走行を終えた直後にストロボを発光（先幕シンクロ）させて撮影します。RTSⅢとTLA280ストロボとを組み合わせると、後幕が走行を始める直前にストロボを発光（後幕シンクロ）させることができます。

ストロボ光で照らされた被写体の後ろに、自然光で照らされた被写体の動きが流れるように写り、自然な動きを表現できます。



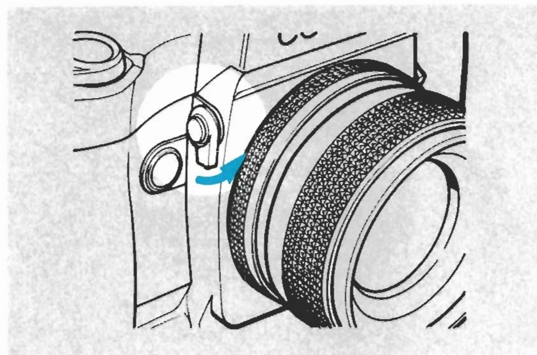
後幕シンクロ撮影



先幕シンクロ撮影

◉露出制御は先幕シンクロ時と同様です。

◉メカ式ケーブルレリーズを使用したバルブ撮影での後幕シンクロ撮影は行えません。



〈ミラーアップレバー〉

ミラーを上昇させて固定するためのレバーで、顕微鏡撮影や複写のようにミラー作動により生ずるわずかな振動の影響も軽減したい場合に利用します。ミラーアップレバーを矢印方向に止まるまで回すとミラーが上がり固定されます。（ファインダーは見えなくなります）ミラーを戻すときは、ミラーアップレバーを元の位置に戻してください。

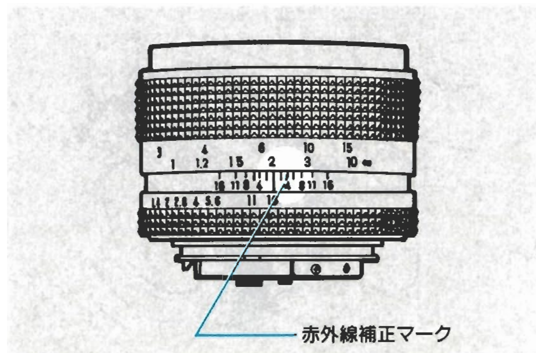
●ミラーアップ状態でオート撮影や露出チェックを行っても適正な露出は得られません。撮影する場合は、ミラーアップをする前に露出のチェックを行い、そのときの露出に従ってカメラをマニュアルに切替えるか、ＡＥロックした後にミラーアップしてください。

〈レリーズソケット〉

ケーブルスイッチＬやオートベローズを接続する接点で、これらアクセサリーからの電気信号を伝え、シャッターを作動させます。

●レリーズソケットには、市販されている一般のメカ方式ケーブルレリーズを取付けないでください。
故障の原因になります。

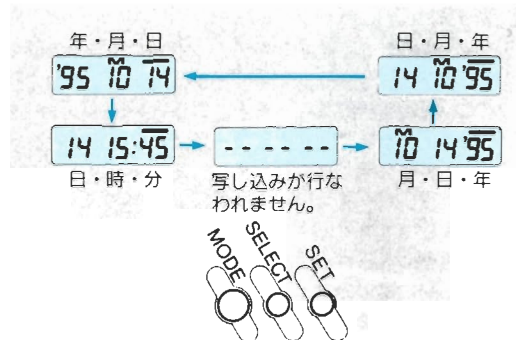
赤外線補正マーク



赤外線フィルム（赤フィルター使用）を使用して赤外撮影する場合は、一般撮影のときとピント面が少しズレますのでそのズレ量だけ補正が必要になります。レンズにはそのため赤外線補正マークがついています。まずフィルターなしでピント合わせをしたあと、フィルターを取付け、そのときの距離目盛を補正マークの位置までずらして撮影します。

●カラー赤外フィルムを使用するときは、フィルムの説明書に従って撮影してください。

日付け・時刻の写し込み



裏ぶたに内蔵されたオートデート機構により、撮影の記録としてフィルムのコマ間隔部に日付けや時刻を自動的に写し込むことができます。

①モードボタンを押すごとに年・月・日⇨日・時・分⇨・・・・・(写し込みなし)⇨月・日・年⇨日・月・年の順に表示が変わりますので、写し込みたい表示に合わせます。

②レリーズボタンを押して撮影すると、表示文字右上の"ー"マークが点滅して、表示が写し込まれたことを示します。

●日付・時刻は撮影画面内には写し込まれません。

●日付表示の上に出る"M"表示は、月(Month)を示すマークで、写し込みはされません。

●**連続撮影**（C）で、フィルム感度がISO64以下のときにデータバックを“写し込み”の状態にして撮影すると、巻上げ速度が遅くなります。速くしたいときには“写し込みなし”（-- -- --）にしてください。

●フィルムの画面と画面の間に、日付けなどデータの写し込みを行った場合、現像処理作業の段階でホルダー収納のためフィルムを裁断する際、データ写し込み部が切断されたり、また極端に露出アンダーのときや夜景撮影などで画面の境界が判別できない場合、画面間のデータを画面内の画像と誤って判断し、撮影画面が切断されてしまうことがありますので、何卒ご容赦願います。

なお、このようなことを避けるためには、現像処理を依頼するとき、フィルムを切断しないよう長巻きの指示をしてください。

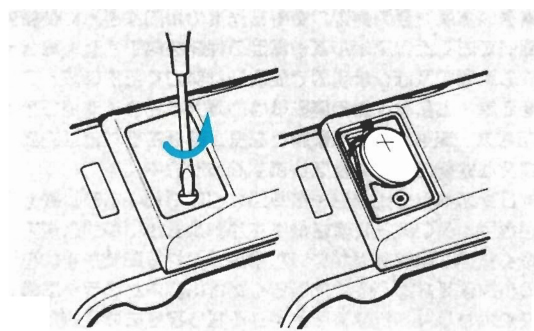
〈日付け・時刻の修正〉

①デートモードボタンを押して修正する表示を出します。

②デートセレクトボタンを押して修正する数字を点滅させます。

③デートセットボタンを押して正しい数字になおします。（時刻合わせで：が点滅している場合は秒合わせです。時報に合わせてセットボタンを押すと正確な時刻合わせができます。）

④修正が終わったら数字の点滅が消えるまでセレクトボタンを押してください。



〈データバック用電池の交換〉

データバック用電池は、長寿命のリチウム電池（CR2025）を採用しているため約3〜4年間は交換不要です。電池が消耗してくると日付けや時刻の写し込みがうすくなったり、液晶表示が正常な表示をしなくなります。このときは図のようにして電池を交換してください。

●デート用電池を交換したときは、必ず日付けと時刻を合わせなおしてください。

デート用電池（CR2025）は、特に幼児の手の届かないところに保管してください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

カメラ使用上の注意

◉暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間置いておくと、フィルムや電池の性能を低下させ、カメラにも影響を及ぼしますので放置しないでください。
◉海岸・山岳などでの撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は腐食の原因となり、砂ぼこりなどは内部の精密な機構に影響を及ぼします。
◉レンズやファインダー接眼部などにゴミ・ホコリがある場合は、ブロアーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払い、指紋などがついた場合はむやみに拭かず、市販のレンズ紙などで軽く拭いてください。またミラー面のゴミやホコリは、レンズ刷毛で軽く払う程度にしてください。
◉寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズやファインダーがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、内部に水滴が生じると腐食の原因にもなりますので、できるだけ急激な温度変化を与えないでください。
◉海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認をしてから使用してください。また予備の電池を携行することをおすすめします。
◉本体の汚れを落とすときは、柔らかい布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの溶剤の使用は絶対に避けてください。

シャッター幕について

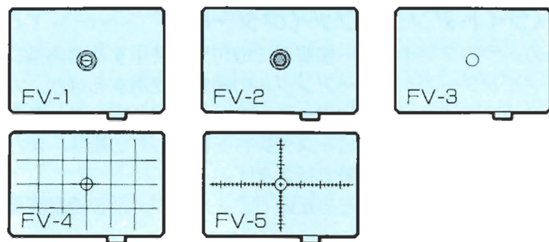
シャッター幕は非常に薄い材質でできています。絶対に指で突いたり触れたりしないでください。フィルム交換の際はフィルム先端がシャッター幕に触れないようご注意ください。また、ブロワーで吹く際は強く吹かないでください。強く吹くと変形や破損の恐れがあります。ボンベタイプのブロワーは絶対に使わないでください。

マイクロコンピューターの保護回路について

このカメラは外部の強力な静電気に対して内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内蔵しています。この安全回路の働きにより極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は、メインスイッチをOFFにし、電池を一旦取出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

〈カメラの保管について〉

◉カメラは、湿気やホコリのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しの良い所に保管してください。
◉長期間カメラを使わないときは、電池を取出しておきましょう。液漏れによる損傷を防ぎます。



〈フォーカシングスクリーン　FVタイプ〉

RTSⅢには専用のフォーカシングスクリーンが下記の5種類用意されており、撮影目的や用途に応じて交換することができます。

FV-1・FV-2にはスポット測光範囲を示す中央部のφ3㎜の円とストロボプレ発光時の測光範囲を示すφ5㎜の円（マイクロプリズム外側）が示してあります。FV-3・FV-4・FV-5には中央部φ3㎜の円のみ示してあります。ストロボプレ発光時はφ3㎜の円よりもわずかに広い範囲を測光しますのでご注意ください。

◉フォーカシングスクリーンは高精度に仕上げられておりますので、絶対に手で触れないでください。
交換の際はフォーカシングスクリーンの取扱説明書をよくお読みになり、必ずフォーカシングスクリーン付属の専用ピンセットをお使いください。

FV-1（水平スプリット／マイクロプリズム式）………標準装備品。一般撮影に適しています。中央のスプリット部、その外周のマイクロプリズム部、周辺のマット部の3つの部分でピントを合わせることができます。

FV-2（コンビネーションマイクロ式）………一般撮影に適しています。中央部と外周部とに角度の異なるマイクロプリズムを組み合わせたスクリーンです。中央部は明るいレンズを使用した時に精度よくピント合わせできます。外周部のマイクロプリズムは暗いレンズを使ったときでもかげりにくい為、効率よくピントを合わすことができます。

FV-3（全面マット式）………全面をマット状にしたスクリーンです。長焦点レンズなど、比較的暗いレンズを使用するときや、接写などでマイクロプリズム部、あるいはスプリット部ではピントが合わせにくいときに適しています。

FV-4（方眼マット式）………全面マット式に6㎜間隔の方眼を入れたスクリーンです。特にオートベローズやPCディスタゴンを使用してのアオリ撮影、あるいは複写など厳密に構図を決定する時に適しています。

FV-5（クロススケール式）………顕微鏡撮影や高倍率接写の時に使用するスクリーンです。中央が明るい透過式になっており、眼をわずかに左右に振って十字線に対して像がずれないようにピントを調整します。また周辺のマット面でもピント合わせが可能です。目盛り線（1㎜間隔）を利用して撮影倍率や像の大きさを知ることができます。

〈視度補正レンズ　FMタイプ〉

カメラ本体の視度補正範囲（＋1D～－3D）で補正しきれない場合は別売りの視度補正レンズFMタイプをご使用ください。
カメラに視度補正レンズを取付けた時の視度補正範囲は次のようになります。

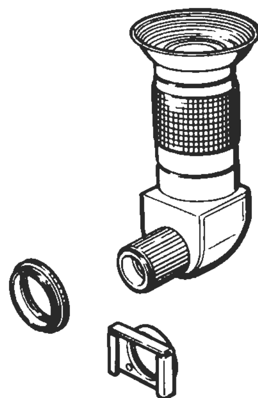
視度補正レンズ	視度補正範囲
FM−3	−5.0D～−1.5D
FM+2	−0.5D～+4.0D

取り付け方

カメラの接眼リングをはずして視度補正レンズをねじ込みます。
◉取り外した接眼リングはなくさないように保管してください。

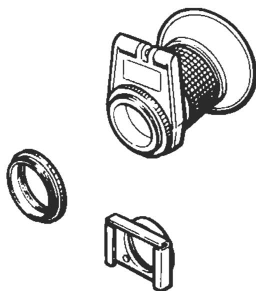
〈ライトアングルファインダーN〉

カメラのファインダー接眼部に取付けて使用する直角型ファインダーです。ローアングルの撮影に使用するほか、カメラに取付けたままでファインダー部を360°回転させることができるので、コピースタンドを使用しての複写、または接写などが楽な姿勢で行えます。
ファインダー画像は左右正像でアイカップ、及び視度調節装置がついています。



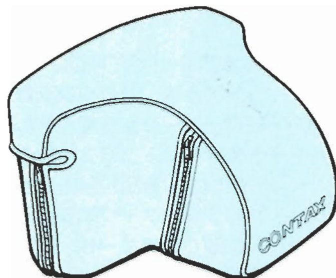
〈マグニファイヤーF-2N〉

マグニファイヤーF 2Nはファインダー接眼部に取付けて、ファインダー視野中央部を2.1倍に拡大して見ることができ、接写のときなどにより正確なピント合わせができます。また、全視野を見るときは接眼部に取付けたままマグニファイヤーをはね上げることができ、ストロボ装着時など状況に応じて適当な向きに回転させることもできます。



〈フレックスケース C-1〉

ケース先端を伸縮させることにより、RTSⅢにカールツァイスT＊レンズの焦点距離135mm以下のレンズ、及びバリオゾナー40〜80mm、35〜70mm、28〜85mmのズームレンズを装着したまま収納できます。



主な仕様

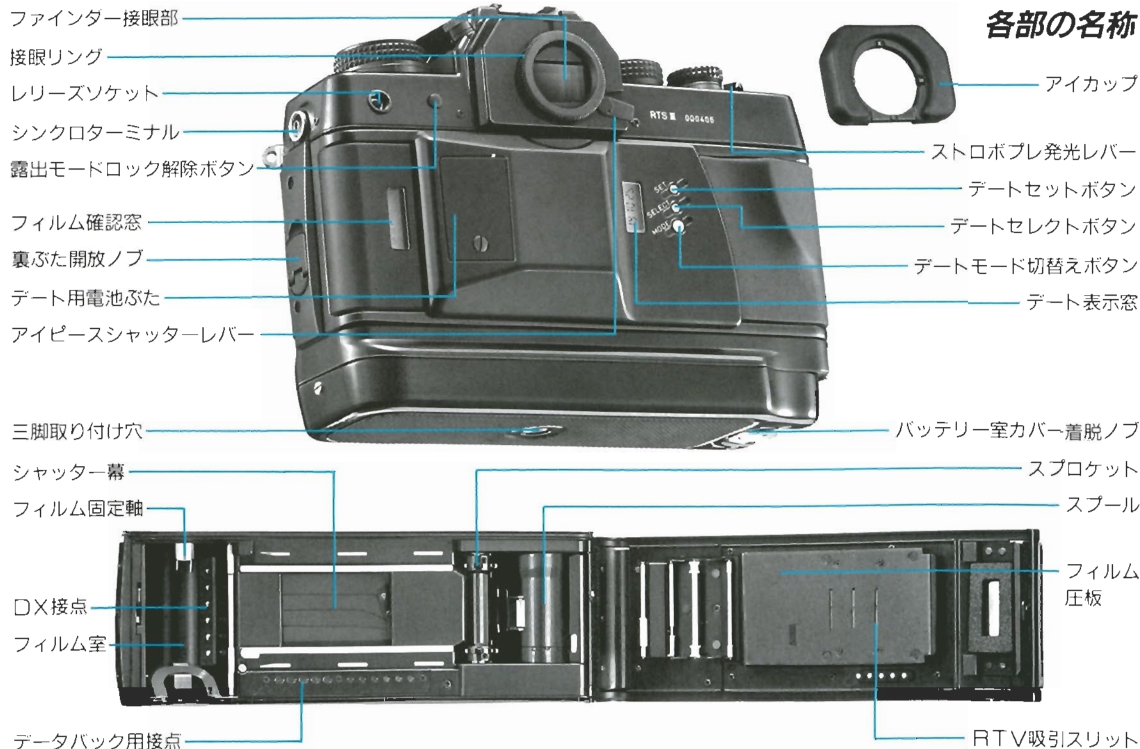
型式	35㎜フォーカルプレン式AE一眼レフカメラ
画面サイズ	24×36㎜
レンズマウント	コンタックス／ヤシカMMマウント
シャッター型式	縦走行メタルフォーカルプレンシャッター
シャッタースピード	オート…………32秒〜1/8000秒 マニュアル……B、X（1/125秒、1/250秒） 4秒〜1/8000秒
シンクロ接点	X接点…1/250秒以下で同調 ダイレクトX接点、及びシンクロターミナル付
セルフタイマー	電子式・作動時間…2秒／10秒の2種
シャッターレリーズ	電子レリーズ方式 縦位置レリーズボタン付 専用レリーズソケット付 バルブ専用ケーブルレリーズソケット付
露出モード	①絞り優先オート ②シャッター優先オート ③マニュアル露出 ④TTLオートストロボ ⑤プレ発光TTLオートストロボ ⑥プレ発光TTL測光マニュアルストロボ
測光方式	TTL中央重点平均測光／TTLスポット測光 切替え式
測光範囲（ISO100、F1.4）	中央重点平均測光……EV0〜21 スポット測光…………EV3〜21
フィルム感度連動範囲	DXコードによる自動設定……ISO 25〜5000 マニュアル設定時……ISO 6〜6400
AEロック	像面光量記憶方式
露出補正	＋2EV〜－2EV （1/3EVステップで設定可能）
A・B・C機構	A・B・Cレバーの設定による露出補正幅 ±0.5EV／±1EV
ストロボ調光連動方式	TTLダイレクト調光方式
ストロボ同調切替機構	専用ストロボの充電完了によりシャッタースピード自動切替
ファインダー	ペンタプリズム使用のアイレベル型（ロングアイポイント式） ・視野率…約100% ・倍率…0.74倍 （50㎜標準レンズ無限遠）
視度補正	視度補正機構内蔵 補正範囲 ＋1D〜－3D
フォーカシングスクリーン	水平スプリット／マイクロプリズム式を標準装備 スクリーン交換可
ファインダー内表示	シャッタースピード、露出アンダー、露出オーバー、フィルムカウンター、A・B・C表示、ストロボメーター、

	充電完了マーク、絞り、露出モード、露出補正警告、測光表示
表示パネル	フィルムカウンター、給送マーク、バッテリー警告マーク
フィルム装填	オートローディング式　フィルムカウンター“01”までの空送り機構付
フィルム巻上げ	内蔵モーターによる自動巻上げ
フィルム巻戻し	内蔵モーターによる自動巻戻し フィルム先端残して自動停止 途中巻戻し可 巻戻し時間…約13秒（36枚撮り）
フィルムカウンター	自動復元順算式　巻戻し時減算表示 B・セルフタイマー経過時間表示 A・B・C表示
アクセサリーシュー	ダイレクトX接点 （TLAストロボ連動接点付）
ドライブモード	1コマ・連続(CL・CH)・セルフタイマー(2秒・10秒)・多重露出
巻上げ速度	CL……最高約3コマ／秒 （新品アルカリ乾電池使用時） CH……最高約5コマ／秒 （新品アルカリ乾電池使用時）
裏ぶた	裏ぶた開放ノブによる開閉式、着脱可能、データ機構、フィルム確認窓付
圧板方式	セラミック圧板 RTVメカニズムによる吸引方式
絞り込み機構	絞り込みボタンにより可能 （Tvモード時を除く）
ミラーアップ	ミラーアップレバーにより可能
電源	1.5V単3形アルカリ乾電池6本、1.2V単3形ニッカド電池6本または6Vリチウム電池(2CR5)1個使用 裏ぶたにデータバック用リチウム電池(CR2025)内蔵
バッテリーチェック	自動チェック式　表示パネルに表示
フィルム撮影本数	36枚撮りフィルム約120本(単3形アルカリ乾電池使用、常温、当社撮影基準による)
寸法	156(幅)×121(高さ)×66(奥行き)mm
重量	1150g(電池別)

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

本製品の機能をフルに活用していただくためにも、交換レンズ、及びアクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。コンタックス用として市販されている他社製品を使用して生じた事故や故障については、当社では責任を負いかねる場合もあります。

各部の名称



ファインダー接眼部
接眼リング
レリーズソケット
シンクロターミナル
露出モードロック解除ボタン
フィルム確認窓
裏ぶた開放ノブ
デート用電池ぶた
アイピースシャッターレバー
三脚取り付け穴
アイカップ
ストロボプレ発光レバー
デートセットボタン
デートセレクトボタン
デートモード切替えボタン
デート表示窓
バッテリー室カバー着脱ノブ
SET
SELECT
MODE
RTS Ⅲ
シャッター幕
フィルム固定軸
DX接点
フィルム室
データバック用接点
スプロケット
スプール
フィルム
圧板
RTV吸引スリット